

第 536 回 例 会

25年3月8日

本日のプログラム

- ・ソング 「それでこそロータリー」
- ・卓話 佐田 幸夫 会員
「私の仕事」
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

次回(3月15日)のプログラム

- ・ソング 「それでこそロータリー」
- ・卓話 クラブフォーラム
国際奉仕委員会 龍岡 恵子 委員長
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

先週(3月1日)の例会報告

■会長の時間

【かれは世界を知っているが、自分自身を知らない】

フランスの詩人ラ・フォンテーヌのことば。こんな人をたくさんみかける。明らかに、自分の能力ではおよばないような仕事に挑戦して、失敗。大きな損失をこうむったり、周囲の人びとから物笑いの種になる者はあとをたたない。が、若い時代にはそれくらいの蛮勇がまたあってもよいのではなからうか。

イソップ物語に次のような物語がある。羊の群が草を食べていた。岩の上からその群を、じっとねらっている一羽の大わしがあつた。一羽のカラスがどうなるのかと好奇心にかられて両者の様子をうかがっていた。一匹の子羊がなにを思ったか群からふらふらと離れた。機会を逃がすはずもない大わしは、高い岩の頂上から疾風のようにかけおりた。羊飼が追うひまもあらばこそ、子羊を鉤爪で、がっきとひつつかむと、さっと舞いあがり、得意気に獲物を岩かげにある巣へと運び去っていった。

一部始終をみていたカラスは「なるほど、あんなふうにするのか。オレだってやれそうさ。いつも意地悪をする羊飼い、羊を盗んで思いしらせてやろう」と、岩の上に飛んでいって、めくらめっぽうに羊の群に近づき、一匹の牡羊の背中の上に降り、爪を立てた。

羽根をバタバタさせて飛びあがろうにも、牡羊は重くて、カラスの手にはおえない。牡羊は暴れ出す。身の危険を感じたカラスは、爪を離して逃げようとした。が、爪が羊のまき毛にひっかかって離れない。ますますあわてて、バタバタすればするほど、爪に毛がまきつくばかりである。その騒ぎをとうとう羊飼に気づかれてしまった。カラスは、急いで走ってきた羊飼に、むんずと捕えられ、羽根の端を切られてしまった。

羊の群を追って、夕方、家に帰ってきた羊飼は、子どもたちに「さあ、きょうはいいお土産があるぞ」といって、よく飛べなくなったカラスを渡した。不思議そうに眺めていたひとりが「これなんていう鳥なの」と、尋ねた。羊飼の父親は「うむ。誰もがカラスっていう鳥だっただけ知っているのだが、でもな、やつこさんのほうじゃ、大わしのつもりでいたらしいよ」というと大声で笑った。子どもたちもいっせいに騒ぎたてた。

中途半端な知識で、自らの力の限界も知らず、なにかをやろうとするのは危険である。むずかしい問題は専門家にまかせるのが賢明なのだが、しかし失敗を恐れず、冒険してみる積極性もほしい。

【来客紹介】 2名

【出席報告】

25年3月1日(第535回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
31名	2名	24名	5名	82.76%

【幹事報告】

【メールBOXに配布】 1)ロータリーの友(3月号)

2)春のライラのご案内

ニコニコ箱(3月1日)

橋山 宗弘(大阪東RC) =メンバーでもないのにIMのお土産を頂きましてありがとうございます。

秋山 千尋 =昨日、IM5組の会長幹事会がありました。いろいろと問題もありました。高野会長、大屋幹事、ご苦労様でした。

花谷 尚嗣 =長男と2人でハワイに行って来ました。はじめてサーフィンをしました。年がいてもなく・・・

河田 英子 =ちょっと嬉しいことがありました。

邦楽コンサートでお琴をひきました。さくら変奏曲の合奏です。楽しかったです！！

森本 良嗣 =今日はお休みの予定をしていたのですが、来れるようになりました。

中井 周治 =今日から3月ですね。春到来、でも花粉も到来です。今日は特に花粉が多いようです。

中根三恵子 =このまま暖かくなって欲しいですね。鈴木さんの卓話、楽しみにしています。

斧原 邦夫 =すっかり春めいて参りました。近藤さんのご退院、おめでとう御座居ます。山野草の芽立ちが楽しみです。

鈴木 正明 =今日は暖かいです。

高野 幸雄 =3月になりました！！ 急に暖かくなって気分も高揚します。鈴木さん、卓話ががんばって下さい。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 10000円	今年度合計 3021268円
---------	-------	------------	----------------

卓話(3月1日)

「地震と建築」 鈴木 正明 会員

今日の建築設計事務所は、大手の事務所を除く多くの事務所が、構造設計設備設計をこなせることはなく、独立した個々の事務所、すなわち構造設計事務所設備設計事務所が、設計を共同ワークで作り上げていく。否、これは今日に始まったわけでもないが、数少ないクライアント、そして弱い経済力の環境では、致し方ない事である。そのような中で起きたのが、耐震偽装事件である。一つの事務所で相互のレビューが出来なく、見過ごしてしまう。意図的に偽装したにもお粗末である。

私の事務所も例外ではなく、構造設計、設備設計は外注である。そこに構造設計はおのずと『構造設計事務所がやるもの』の意識が存在する。設備設計も然りである。人間の体で言えば、骨が構造設計であり、血液・臓器が設備設計であると若いころ教えられたが、意匠設計といえ、いかに『美人をつくるか』を考えてしまう。私もそんな環境で仕事をしてきた。

そんな中、私の周りに構造設計をしていく事務所がない仕事が発生した。困り果てているなとこに、問い合わせしたが相手にしてくれず。拳句の果てに天下の日建設の常務に、知人を通じ相談することにしたが、これも相手が大きすぎ話にならない。ただただ時間が過ぎるだけ数週間をすごしたのが、現在進めている神戸の寺院建築である。

構造設計における計算方法は、許容応力度計算・限界耐力計算・時刻応答解析の3ルートで建物の構造体を設計する。個々の説明は、自分自身構造設計の専門家ではないので省略する。石場建ての柱による構造設計は現在の建築基準法の許容応力度計算では、基礎と柱は金物で緊結しなければなりません。

石場建ての建物が現在の基準法にて確認申請が認可されません。しからばどうすれば確認申請が認可してもらえるか、はたまた深い闇の中に入ってしまう始末でした。

石場建ての専門書を読んでいる中で、限界耐力計算で設計し確認申請が認可された建物があることを知り、又、その中である書物が参考になった旨の記述があり早速、アマゾンのネット通販で購入したのが『地震と建築』でありました。

建築士の資格は皆さんご存知かとは思いますが、耐震偽装事件以降厳格化され一級建築士の中に、構造一級建築士・設備一級建築士の資格が新たに創設されました。

構造一級建築士は、確認申請の中で一定規模以上は構造審査がダブルチェックを必要となりました。厳しいことはクライアントにとってよいことであり、必要な事ではと思っていますが、確認申請の時間が従前より数倍かかり審査手数料も高額となり負担が大きくなったことも事実です。設備一級建築士は床面積が5000㎡以上の建物に関与する資格になりましたが、これも従前よりあったことですが、資格者の印鑑が必要になりました。

私は単純に一級建築士のみ資格であり、構造のパートナーは外注事務所でお願ひする。計算ルートくらいの知識しか持ち合わせなかったのであります。

そこに『地震と建築』を読みざるをえない状況になり、地盤とは何かなどを再認識したのであります。

建物をいかに地震動周期に共振させないことが重要であり、それを探るには何をしたらよいかを学び実践したのが、地盤の卓越周期を調査することでした。

卓越周期を調査し建物の固有周期と合わせないことが必要です。

地質の専門家に相談したところ、地盤は海の波により常に動いているので常時微動がわかれば、地震の際には常時微動の周期にて地表まで増幅してくるので短周期か長周期かがわかれば対応が出来ますとの事で、深夜電車が止まってから地表面から50mの地点で測定し、その結果卓越周期は、0.23~0.50との結果が出ました。これは短周期の数字で石場建ての木造建築物には、共振しない結果が得られました。ところが地層の傾斜角が5度未満でないと、この数値は使えないとのこと。

傾斜角が5度以上あると、地表面に伝わる地震波の増幅が予測しにくい。

結果、常時微動が短周期であること、地盤は洪積層で比較的しっかりしていることが判り、安心要素と不安要素があることを、認識しました。

以上の結果、石場建ての本堂建築については足固め貫を二重にすることで決着し計算方法も限界耐力計算にて、確認申請も認可に至り来月から建て方を始めます。

クライアントである、ご住職には次のようなこととお話いたしました。

『落雷で燃えない限り、想定外の地震で倒壊したら再度組み上げましょう。1尺5寸 8寸 9寸 1尺の柱で構成される伝統貫構法の良さです』 　ご住職は、笑ってました、やはり大人物です。　　　　　　　　　　　つづく

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか